

小精序日誌

昭和九年六月廿五日
以降

特別

14

1919

618

35

40

45

50

小幡廬日記

昭和九年七月中迄以降

七月

十五日

日

冷時、木林賜朱話、朝来揮毫正午に
 十幅成す、午後二時宗家の継志令に臨む、
 安南市以成之界に主人と継志令の契約を
 協議せしむ、丹吳協平に荷す、文三来

十六日

白、揮毫と冊三并、舟の船崎、郵送、生苗
七部、堀内の病況を敷く未、旅心心境記
者村上俊順来り寄る所と求む、改日献て来
功、旅依心境の為め、夏舟を乞ふ、船崎仁一
より来書、船崎仁一、一書を投ず、翌日、代
五日、舟あり、又付、揮毫、時を移す、五時、江
多崎、列り睦令、臨む、真、桂吹ら、六空
又、舟状を敷す、今夕睦令、出席者、高田井上
杉、木田中、増田、森、廣、花、中、月、并、余、八人

榎原製

今津のひとと酒を飲つ来り

十七日

晴、九、氣、似、り、と、目、に、高、橋、石、津、東、橋、舟、崎
仁一、揮、毫、と、寄、り、す、心、境、と、寄、り、す、き、る、舟、を
以、り、寄、り、す、舟、の、中、に、し、も、者、又、由、あり、る、舟、の
の、也、と、寄、り、す、舟、の、代、の、舟、懸、り、る、舟、も、寄、り、す
為、り、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す
十二、日、お、来、り、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す
間、五、十、崎、旅、の、舟、を、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す、舟、の、寄、り、す

リ味増一様別集、出遊中山大らの日本盲人
史を辨るを始く、夜来向

十八日

而亦凡社の強姦書卷の囁とをいふと手紙の
系ねを伝ふとと相来あふをよし時を費す
廿五日の法印別巻後今并然也今の通條
列の報の代とと来書心鏡能化と名ねを
交付日本盲人史と讀む書史の今の木村一
郎と相接、この聞く所法今と云、序とを以て

榛原製

て去る、夜井重次とと来書、午後教果相生
と記すを始く、

十九日

時、朝来書卷、空より心きるねと書、夜井
田、貞教、貞成、真治、桂次らとと来書、七日
那、公道、正、合、久、守、ねとね、あ、り、二、振、利、
午後亦厚ねと著りし十八枚ありと一、夜、脱、稿、
三川の傍ねと、ソロンを贈り来り、日本盲人史と
讀む、古、あ、る、三、つ、り、ま、り、あ、る、を、贈、り、し、ま、り、廿六。

東田師、中史、今令の産後令といふ、方、
内閣の政務、次官、定、
官と決す

二十日

時、
の印、
美と、
納付、

藤原製

二十一日

細雨、
投す、
時を、
付の、
筆、

二十二日

日

紅葉、
宇都宮、

を奉り、十時又雨あり、夜帳を奉り、中深象
一寸月、午後日本橋船中を遊べり、
吹雪、雨、来し、夜帳を讀む。

二十三日

雨、朝来北風、午後一萬八千部を祝するの
系、宿を奉り、長み、成也、市、成、一、
来、向、龜山、奉、三、
猪飼、故、石、の、首、係、
（摩、山、杉、南、の、是、後、）一、幅、を、贈、り、改、上、弘、
た、り、注、射、を、施、す、依、り、
西村、文、則、雜

榎原製

夜、趣、好、一、刺、刊、の、き、
後、武、田、中、四、の、
是、も、需、り、
夜、帳、を、奉、り、
又、押、
也、也、

二十四日

雨、朝来、夜帳を奉り、
五、十、山、旗、
風、卒、六、
一、ち、ろ、し、
夜、法、趣、好、
と、投、す、
へ、き、
日、本、山、
の、祝、

後一冊而成之。冊共協平と未書。新の書
記と土肥未之と未書。夜未又由

二十五日

雨朝未也。湯の湯一冊と草す。田原未三人
才の、森脇野と来、関、業、河部、一
請、渡、筆、記、現、下、世、界、友、我、國、の、任、滿、状、勢、を
讀、み、四、時、五、時、死、ん、だ、と、い、ふ、印、創、の、重
役、と、い、う、き、後、一、紙、を、借、り、余、の、
信、を、収、め、に、施、送、文、件、に、接、利、熱、海、の、海、内、を、
標、原、製

の返書、川、今、伴、八、一、と、文、の、持、士、の、位、を
受、け、た、と、の、報、せ、り

二十六日

雨朝未、旅、行、と、著、す、関、大、中、と、未、書、森、脇
夫、村、大、隈、家、の、女、子、行、根、抵、あ、つ、き、大、隈、家
の、要、求、を、簡、し、て、未、読、報、知、社、又、山、森、利、一
其、揚、下、谷、屋、六、路、凡、日、を、飲、み、午、後、一、時
安、田、邸、に、利、一、書、送、答、合、の、座、後、合、と、臨、む
借、書、に、就、て、後、論、好、時、る、と、決、り、飲、む、後、論

長、日本同方館協会とて来書あり、全回を田村耕
由子に交付す。

二十七日

晴、冷、於郷を著す、山田河心、身振、全津八一に投
簡、山田河心、復、松本二配本、堀内の病状を山田河
心より、各所より、田中元久、札列す、午後、田中
二乗より、松原を著す、ホ、ル、巻、山崎恒中
とて来信あり、林、新、号、新、研究、の、り、と、早、大、と
次、朱、に、派、を、さ、ら、し、の、き、装、お、札、列、す。

穂原製

二十八日

晴、漸、や、く、日、を、氣、を、著、の、予、の、寄、札、を、ぬ、り、と、本、州
に、振、列、し、巻、山、年、を、目、一、二、の、巻、を、齋、す、猪、飼、家
不、方、所、代、り、田、村、河、心、の、病、の、改、正、を、と、古、原、に、托
す、文、の、巻、を、清、の、巻、に、目、掃、入、更、と、目、掃、入、紙、書
の、改、正、大、津、冷、帖、を、熊、の、原、五、十、内、也、午、後、
共、五、と、忍、ん、じ、村、河、心、の、病、を、著、す、伊、賀、山、の、湯、池
の、病、を、著、す、心、十、数、頁、成、り、里、田、河、心、と、来、書

二十九日

日

晴朝未遊記を校中へ奉陽電の本中にて受り余
の寄符紅葉之と取めり養所取日月節に極列
十時散策唯白丸第一の外交と文藝を購心
有以る合本に酒飲して物く、自今用修致
油高此處に注又、今更自月未動宅の内、ゆ
こ交付、午後後をこ時を移す、度井重次
来者在大阪重栖し、物と贈る来り、昨日よ
り氣温高くと、終日凌も、子ぬり、深文大
一過

三十日

驟雨未朝未遊記を奉り、堀口の外交と
文藝と、午後時を移す、今更遊海山田
心も未書、夜に入り雨通宮降り、

三十日

雨相未遊記と奉り、家用多くと四十圓
支出す、堀口丸萬一、一色も、

八月

一日

雨朝未揮毫午時三十分幅成午後
教員招生之相と賤乞のゆく、前月拂ふべき
所得税金貳万三千圓内子に交付午後雨
ぬり方雨勢あつ、旋法題好に投ずべき隨
筆と心の関大らふし未書

二日

雨冷氣方強く朝未筆好を乞う創刊

穂原製

旋法題好に揚目人考而打文則に投筆
免風被書名是行の致被書に余の抱筆
中の今この又を掃ねんことを祈ふ乃ち儀
余の執筆の手段と書とぬめや平風紙の書
藝に福利、雷流料納付昂通るりに因交
其段上は局より江射と施す五十餘旋の
百合利未、文三才の月勢流る、午後旋法を
競演時を移す

三日

頃朝未書花を旅志の以てあるを止す村山秋
浦山陽春琴の画幅を起雲を清小亀山東
三山陽の柏山亭の遊覧の序文を好むと好
ち来り示す曲階前より立ち延び人を傳へて前
こゝに五時ある四郎の行き程を後知念今の月火を
こゝに今夫れより帰るの途に中地雲ありし
かゝる家人報す時雲時計とすらし

四日

頃朝未書きし日の夜程と惣記す四日也

地山四原に行く田村花二即未揚堀口九原一
より未書花程を暮す甘ンデー毎のこゝ余の
随筆を求め来る。西村文則も未書、十時
去ぬ所の三福日鳴す、石塚ありし物を終り
未の園に乘し亀田崎の市陽開飲序も
録す、矢吹有こゝも海山列の小舟一推し
也若六相及階化に移け、埃基の表示に付て
のパンレットを定めて其の支麻生心花に招き
行く、^{北條}榎木中作を改め、中作も未書

五日

日

晴、晴夜無風、温熱あり、如めて夏夜の苦さを受ふ、
人と動めて森棚下、堆積の杜若を仕末し、且つ如そ
敷、整理す、山中山房とて近利大言、海才三冊は、七
と寄と来り、石塔三冊、馬橋、睡と中、序、表、二、本
ふ、午後出入り、骨董高、よ、十、而耕石、新古
谷石外、如、三、と、挿入、

六日

晴、朝来、極、と、起、す、る、為、を、心、つ、て、成、る、亦、能、

穂原製

深、と、筆、を、し、ま、ふ、漸、や、盛、暑、を、感、ず、午、後、々、冷
一、麦、酒、を、飲、み、午、睡、一、時、間、是、の、時、に、故、を、後
去、大、磯、島、増、田、七、郎、の、清、心、列、二、午、後、亦、一、編
を、草、一、如、と、未、成、

七日

晴、晴、書、き、の、け、の、る、が、筆、也、余、の、投、箱、を、扱
め、の、書、法、若、く、極、利、午、後、亦、学、報、と、扱、ふ、心、き
と、美、濃、山、(四)、を、筆、也、す、定、信、と、列、す、一、七
じ、ふ、高、の、村、吏、(雲、々)、と、月、北、病、氣、す、金、一、を、扱

一子、昂西(西)若地、の物。

八日

晴、朝未可敷、投下を原好と心(心)成る、赤
赤朝日と投下を求(求)未(未)の、長男、概(概)致(致)後(後)廿
五年、の(の)祥(祥)高(高)之(之)趣(趣)可(可)野(野)山(山)清(清)心(心)成(成)と
通(通)心(心)を(を)受(受)け(け)、皇(皇)五(五)百(百)を(を)送(送)り(り)回(回)向(向)を(を)頼(頼)む、
船(船)の(の)歎(歎)金(金)を(を)五(五)十(十)兩(兩)引(引)出(出)す、人(人)事(事)具(具)在(在)不(不)の(の)日(日)比(比)以(以)
春(春)身(身)極(極)、宗(宗)報(報)兼(兼)、古(古)徳(徳)云(云)、原(原)好(好)と
寄(寄)の(の)才(才)、年(年)五(五)十(十)の(の)時(時)、吟(吟)し(し)麦(麦)酒(酒)を(を)仰(仰)け(け)暫(暫)時(時)午(午)睡(睡)

稗原製

原好と兼す、(志未可一男)

九日

晴、大坂毎(毎)日の(日)内(内)万(万)旗(旗)徳(徳)の(の)儀(儀)と(と)心(心)成(成)り(り)辻(辻)正(正)
一(一)夫(夫)一(一)婦(婦)と(と)投(投)下(下)す、予(予)し(し)侍(侍)人(人)七(七)数(数)兼(兼)来(来)白(白)木(木)
尾(尾)、お(お)と(と)踏(踏)ひ(ひ)高(高)崎(崎)尾(尾)地(地)ら(ら)余(余)を(を)、酒(酒)飲(飲)し(し)
て(て)歸(歸)る(る)、木(木)村(村)一(一)郎(郎)、一(一)色(色)と(と)兼(兼)す、二(二)時(時)賑(賑)而(而)
判(判)文(文)三(三)村(村)十(十)秋(秋)十(十)月(月)迄(迄)、余(余)の(の)寄(寄)名(名)を(を)載(載)せ(せ)
たる(たる)心(心)境(境)と(と)寄(寄)の(の)世(世)と(と)去(去)る(る)、至(至)樽(樽)二(二)層(層)塩(塩)礼(礼)沿(沿)
と(と)池(池)の(の)湯(湯)の(の)祝(祝)と(と)心(心)境(境)に(に)寄(寄)す、

十日

高松海の経のありて是に一編を授す、朝来朝
陽東抄の需のありて一編を授す、中
央公論社とて海内全集第十一回の配本と受く
へしり一六世末三部冬の夜は二冊成る、石塔
三つ、木功半後龍言を讀み時を待て村山秋
浦の物を贈り来り、大石理山二一巻を授す、余
の客のありて授めり、早稲田の巻を授す、福刊

十一日

榎原製

鮫分来、朝来遊記とて巻末、善本新
撰の刀剣書古流の印本を授す、甲戌末一
輯配本、坊上弘花の巻を注射を授す、
半後龍言と讀み時を待て、和の巻を授す、
と受り来り

十二日

日

朝来寺法名今の座法師守余の海流を授
けり、木村一印、技師、日本圖書館協会、
望の清浄心流とて来書、十時光を待て出

淡名をよみて行きむ谷の風月を酒飲も
ゆき楠瀬日よも大よる木中の遠き
ふれとまをよみて関大よも敷地の城
後殿の敷もやまふ久佐酒の信託と定も
ふり崎名大石理の酒も何人の後

十三日

崎楠瀬拘束の貸付の日本古印簿六冊
日本印史行通印、城の遠きよも二巻の
拾えりき利未、早大回書録も傍書に

榎原製

関する三四の圖書を借りて観閱時を務す
日本の偽者、関して、速方行を日偽者業
ありなる詳分より、深谷、三木物、午の
を照つる、午後旅帳を筆す、関大、木
村一印、簡す

十四日

崎早起、朝来旅帳を筆す、十時迄を待て
日本橋迄、拍と録ひ、市物、倉中、酒飯
一七物、午後書誌、名、偽者、座、談、合

の市の法話録を補正して木村一へ郵送す

十五日

明前未仍者座談の録を兼して書誌を整理し
投す、里岡清徳と相馬日報数部を公せし
り、僧來り談話廿日果岭典二より物を贈
る、午飯を煮つておの、春城代解ぬを贈る
和四為吉と未書、人と働くと終日庭を掃
夜に入り稀音家六回りの作曲苦心話をうじい聴く

十六日

穂原製

晴、今期先三のり作ぬを幼らん為め、
十時出出心じい、物を贈ひ散東も谷の風
月、飯してゆらる、書法、心強徳と字信
の法盾後、西摺利来、人々、印時一枚、七久
す、午後無聊を考る為、白紙書者考の膝
字と始末、夜に入り先帰宅

十七日

拂鏡、驛面一過、控ぬを筆し、又、ゆき、左、腕
寄、今、侍、ハ、心、介、中、島、廿、方、男、酒、の、販、賣、

つきよみ後、細後味噌と主柄筋に新文、
会の松の物語と採収せる保神考一編昭和
子回文漢本全編十冊音美考跋と列来
高野山法華心院神弓撰回向(廿五年忌)の供物列
入中島と白鷹と細後味噌列来、

十八日

昨朝未だ龍舟を筆す、雅賢秀太郎(西化名
吳昭彦主)の証に接す、弟也を考ふる、松江書局
須芳次郎(主)の証に接す、弟也を考ふる、松江書局

藤原製

せいめい 誠文堂書店中里段又接、水谷龍三
とむかくある大陶印と辨の、田中清石と杉山令吉
今津八一と似似す、午後空字二時を其す、

十九日

日

昨朝未だ探の勝手とす、甚海法精府回
書解と愛書二冊珍の書志一冊を其す、
十時湯少に出、午膳空用の書も精の法精の
二列り上る、飯、ゆき、不立中、中島芳
園東派、

二十日

昨朝未日深。賤方、時を移す、亀山二三書を
と持来り、午後七時、及、満洲友寺、時元
重しし来間

二十一日

昨朝未、於、山田、中、
芳男、久江、一、日深、賤方、
後、人、出、物、と、

積原製

二十二日

昨夜、朝未日深の賤方、時を移す、在、甚、
中、推、来、書、直、中、島、芳、男、の、
草、酒、店、の、推、又、
花、の、
余、の、
サ、ン、

二十三日

昨、山、田、

の騰字の時を移す午後遊録を著す九月一日
日二日市都府定法習を修ふこの日の燈火を判
せ行ふ方半は三日所度固くも通際あり

二十四日

頃遊録を著し又日深の騰字をうすし十時をこむ遊完
日休日里不動を著し早稲つく長方市崎を公を
二級七ゆる午後又騰字の時を移す晩間石
塚三ヶ村東辺を起満奈燈火を判の遊録を
行ふ

棟原製

二十五日

陰冷相来日深の騰字をうすし細川吉左又ある
方花の白拂文々々北高富大高の記横を著す
傍々中向此方未拂午後遊録を著す大阪毎日
を原形抄井一田利来和ふ叔父三十三回忌の遊
物あり香典五回あり三田依ふくくす花を著
り来り

二十六日

日

晴冷相来日深の騰字を試み^合り、本林殿著梅

来ぬ、光と付の三紙を伝へて方に入大箱を得
此州の酒飯しと物く、坊山一節か早大津
清く、父と起す、筆記を訓漢す、

二十七日

唯波割平島の紙列の梅北とふり大波集
夫と楳本香波集(石列)を寄るも、直に
出さるる、紙集を筆す、山田信成も、紙集、合
本二冊配本を寄る、千原も紙集を筆す、皆三冊二冊
ひんり、大文書紙列達を寄る、志数二万冊の入

稗原製

本最漸やくもの紙地を生え、横山香波集(石
と續ち、平の投行も取のり、本州と振列、

二十八日

晴、朝未終紙を筆し、松方と漢文、十一時紙
初、列り三福と酒合しと物く、千種一時名
於紙紙後、時と移す、血書、圓教人吉紙、
捨るの論を寄る、紙集出り、

二十九日

九月

一日

而、冷、よふ震天動地の記念日と成る日防定演習を行ふ市民法運動員、中島芳男は内士行も未書、中山忠直の如く洋の画集を以て計画をたたくし未接、十時お出三献の森林展を観る折柄雨あり出づ、十一年前大震の時刻のサイレンを風月をの念を、聴く、二万十日七無風雨天をこぐ、空や雨熱激とせりの演習の飛行機攻撃の難儀思ひやも。午後家へ雨を聴きしころ

船級を以てし、四時を吹雨ふきり雨降り、サイレン頻々と鳴り、ラジオ情報を通すもたゞし我に入り機火多利、僅い機を滅す、雨やきり不況況漸や盛んき、九時迄もまむ、ラジオも黙況をきく、突如地震ありや、激、十一年前の多きを偲ゆ、十時寝に死く、演習待機三時夢醒の志きり、未射砲をきく、抽曉飛行機数台を返して射砲未、高射砲連き速射砲の砲撃たし

二日

日

晴、今朝八時半防共演習了る。朝来霧森致味
の厚粉と作の身運山島長津川瀬と右方の傍
んこと川東、寺崎元重と母と終る
系久一介と来者、夕日三の松林と観後也
未降雨

三日

雨、好まぬ物を著せし森西分と葉一と春陽を
の、本州一と空のう、田村花こらとまこと、寺と終る是日

榎原製

と利子二千圓交付、午後新名二散葉、田村
を晴るを切る

四日

雨、冷、露付の龍崎、他安と後、日本国者
飯塚合、く日者、(理)今十三日、口清印刷全此
と、十一日市役所の通、藤利と、事終る、
万選、今の記念冊子と、寄る、又三、

五日

乙辰の身姁、預金百五十圓引出す。十一時出浴行
而、物を購ひ三福の酒飯あり、志具庵に托し、一
成、午後讀書あり。夜来又あり。

九日

日

朝未驟雨去来、旅帳を考へ、古村松雄井上
精二竹俣善止母子、の次年間の旅費記可
要、後信をまゝにりき、旅間をんことを未だ
流す、森塚の打場守のさき、まじりて、山陽
の待情、銘定をとり、心考にあらんと判す。

種原抄

今伴二、未書、午後と感風来り、約二万
十日の前提を以て、終迄、風板お換はる

十日

二万廿日

雨也又風あり、余、寄給、日本山美の記、後
物の多、旅記、趣如「創刊、非、梅利、王、望、美
夫社用と未流、十一時散策、路生、列、り、噴、時
路生、公、中、酒、飲、し、物、書、後、露、伴、の、冬、の、日
抄、を、讀、み、四、時、安、の、是、次、り、郵、の、所、在、を

此稿也、

十一日

晴余日校行を収め、心境九月部と接列し、
又日あつたの報と接列し、十時の片印刷分紙の
重役今と晴あ、東京口、記者杉井彰徳市精一
郎の家へ来て、余の同方、就七の任思を、
紙に載せ、ことと、瑞し、返す、午後、東京口、
二、揚へ、き、友、宿も、事、心、す、市、役、不、く、と、使、備、入、
課、税、の、も、係、と、接、し、十九日、紅、毛、紙、に、校、行、

藤原

晴余日校行を収め、心境九月部と接列し、
又日あつたの報と接列し、十時の片印刷分紙の
重役今と晴あ、東京口、記者杉井彰徳市精一
郎の家へ来て、余の同方、就七の任思を、
紙に載せ、ことと、瑞し、返す、午後、東京口、
二、揚へ、き、友、宿も、事、心、す、市、役、不、く、と、使、備、入、
課、税、の、も、係、と、接、し、十九日、紅、毛、紙、に、校、行、

十二日

晴、未十七日、先考の三十三回忌、相南に
付、淨念寺、并、高野山、清淨心院、

リ来。日本書誌子今。二十日駒場前田侯
邸尊任閣花書鑑賞の通際付。是を
付せ給仕。物と辨ひ給仕。名を酒飲
て帰。一。海。林。三時。西。霞。付。の。春
冬。の。日。抄。を。讀。む。七。五。京。の。こ。の。杉。井。彰。々々
未書

十五日

昨今朝の来。京。日。と。比。多。余。の。定。の。物。を。収。む。旅。録
と。兼。す。田。村。在。二。ヶ。合。務。の。つ。き。よ。み。改。服。部。

東京製

冊石取功、近著、句集おはれ、こしと物も、長
時、可、成、紙、を、ち、し、と、ある。右、保、三、の、く、と、物、を、贈
り、来、又、京、京、の、つ、り、も、余、の、寄、と、い、二、葉、を
う、り、を、い、れ、ま、午、後、演、之、時、を、移、す、晚、間、京
都、名、家、も、金、梅、軒、も、来、の、金、星、も、よ
り、現代、悠、草、全、集、編、纂、公、に、付、未、書

十六日

日

昨朝、未、読、録、と、兼、す、中、津、京、一、年、功、玉、井
幸、助、も、余、の、文、を、お、り、り、田、村、後、本、を、寄、り、也

寺の、静光と傳ふて、教束、新君の三福に、
報望、出と、向ふ、市電、淨潔、已む、清淨心、
も来、書、

十七。

所奉の先考の三十三回忌辰、丁酉、
傳をねき、清經、親族六家、物を贈り、文
三十七代四束、酒領を授け、五十、
念寺并、高野山、清淨心、
施と、贈り、回向、佛、
施と、贈り、回向、佛、
施と、贈り、回向、佛、

徳原表

真為、柱、
明欽、
き、
列、
首、
高木、
ち、
別、
降、
贈、

二十日

時、新島、伊東町未知の人醫祖神社、祭守小穴
南支、以、書余の、東、多、り、り、載、を、以、狼、首、後
味と、淑、考、く、未、の、市、来、醫、の、母、死、去、の、き、香、典
を、送、り、先、を、休、め、七、日、本、持、節、と、お、と、贈、り、あ、る
時、尼、念、堂、と、酒、飲、す、午、後、雨、あ、る、切、書、後、旋
船、を、兼、す、栗、林、羊、一、と、来、書、以、り、の、中、飲
城、即、り、井、川、役、場、島、田、善、次、と、余、の、押、在、を、
需、め、り、す、午、後、夜、深、と、兼、し、船、を、入、り、

藤原製

二十一日

飛、以、来、去、り、す、拂、曉、と、雨、を、併、せ、去、来、以、度、の
進、り、多、き、く、正、午、と、晝、と、古、く、庭、園、の、樹、倒、り、
忽、ち、波、の、湧、ぬ、の、間、西、の、大、風、と、傳、く、大、波、の、風
速、六、十、米、大、市、の、山、を、抜、御、城、集、り、し、と、言、り、天、王
寺、の、五、重、塔、の、倒、壊、と、傳、く、京、都、西、原、の、あ、ま、も、倒
壊、五、石、の、生、徒、と、言、り、と、あ、り、東、海、道、一、節、が、汽、車
顛、倒、其、他、の、傷、死、と、東、海、道、終、不、通、と、傳、お、
東、京、の、風、速、六、十、米、一、時、半、の、う、じ、才、日、持、心、報、の
ハ、メ、ー、ト、ル、と、二十、二、日、未、に、進、み、多、と、報、す、未

京の被害ハ関西の如く甚しくつらさんともお申す様
書もよく未洋報を得たり三時以後は風浪
和しく雨を閉して臥して讀書、直ぐ柱
の中にも未書、早大教授二本保蔵の部列す。

二十二日

昨今朝の如く紙に関西の被害の洋報をねお換
害五條目上中も下に下とあり、文藝春秋
り余の固考既味と執との定有存を求め来る。公
嗚こ返し二三紙押し是を固了二人来り度掛

藤原製

の平入をもち付向書ありしに紙前書丹二個
燈り来る。山内侯士書ありしに先を告ぐ成
若く未好房より未書、河内中丹共名中
初物を移す、故後新井所長島田善
治に押し是二枚郵送夜未雨

二十三日

昨、固了二人来り、星龍今の所月形助本
橋、市以徳彦伊豆伊東小穴南書しと来り
龜山書下三書書し、故へ来る、十時半先回付

二木保光の生女、師云、二木の宮内女婚也。香
典於田老の、新宮赤塚彦、彦也と名付
又六穴南左、夫と云、お馬松と云、
世子、午後猿と奉す、宗家御者と名
せし、在大河和家、中と云、大風、
只今、鹿十五鹿の月、一節、家例の供物と香花を
供し、月清し。

廿四日

秋季皇女

頃、朝末文藝春秋と名付、ふき原行と名付

成る、園丁二人来る、城後興、梅所、源の英、
予の押、毫と七との月、直と、押、毫、
郵、二時地震あり、内野者、一箇、素圓
石清の友、印を七と云、

二十五日

頃、拾法キ、ヒ、グ、と、投、稿、を、七、と、め、
梁、度、時、者、の、任、命、の、任、命、の、任、命、
園丁二人来る、一稿と文藝春秋社と投す、
兼、銀、座、の、飯、す、雅、志、キ、
グ、に、投、稿、能、

酒領七、お、難儀キンガ編輯、横山八、中、
と、未月三日座談会を聞くと、つき、出席
を求め、未、

二十八日

晴、天り、中、方、物、代、五十、目、辨、泊、九、山、八、棒、原、二、画、
紙、と、結、心、世、景、有、下、に、酒、飲、ま、森、松、天、尾、
界、身、身、午、後、八、の、為、四、五、枚、押、其、冊、其、
関、塚、地、主、湯、田、善、次、に、神、毫、郵、送、

二十九日

晴、今朝、森、松、日、付、古、山、に、大、隈、屋、を、訪、み、て、
文、の、多、院、の、買、付、河、巻、二、つ、き、内、儀、其、阪、上、
江、島、身、身、の、在、射、士、施、一、と、有、る、校、友、山、宮、坂、邊、に、
助、手、手、振、(永、井、柳、大、中、記、存)村、山、秋、浦、に、在、す、
金、札、由、田、吉、三、郎、の、利、子、未、精、瑞、と、交、付、午、
後、於、此、を、筆、す、冊、其、原、示、と、未、書、亦、其、校、
の、濱、田、英、一、郎、と、出、出、州、の、夜、未、亦、而、

三十日

日

平凡社とて全社料十三日到来、午後宗家
きつひ成一と繼志令の事務と安んず時以
差飲、列り睦令、臨む高田中井上増
田来令、支那大文字、旅費と松葉と贈
り来る。

七日

日

而、市電油停成り、亦と罷と罷業、朝未能
紅と兼す、國民百種辞典謝段あり、富山房
より、そのせり、光を付け、西中散策、日本
橋の物と贈ひ、吾等令、望と酒飯と、日

穂原製

ふ、越後下の宮三軒と、粟と、寄て、事也

八日

物と、ゆきつて、きと、七降り、池水漸やく満ち、石
と、支へ、竹、枕を、浸す、と、列り、池、観、一年、振り、し
敷、山、二年、間、の、海、義、録、堆、積、物、と、上、之、置
く、の、高、き、と、今日、切、川、書店、に、市場、と、書、印
こ、し、と、正、仲、登、美、と、社、句、と、事、所、能、所、と
兼、す、午後、侍、人、と、文、行、巻、を、送、り、三、三、巻、と
を、贈、り、と、由、り、

九日

所、梅澤慎六の事、押書をもとめて、中津家一丸
取、十時、日守部、副の重役、今、臨む、今日、普、通
議題の外、平、仲、方、格、が、夏、以、来、夫、英、金、と、有
る、世、間、の、注、目、物、と、思、其、他、を、評、論、納、意、の、結
果、を、一、時、分、に、再、り、報、告、し、其、結、果、終、る、而、社、会
併、の、内、議、既、し、秀、英、七、金、保、を、主、要、と、する、の
報、を、得、し、り、臨、時、を、後、合、を、つ、ま、き、(正式に
決定すること、す、か、運、び、は、多、く、不、在、中、り、日、刊
り、受、も、此、代、の、新、公、真、事、の、注、目、物、と、思、其、他、を、評、論、納、意、の、結
果、を、一、時、分、に、再、り、報、告、し、其、結、果、終、る、而、社、会
併、の、内、議、既、し、秀、英、七、金、保、を、主、要、と、する、の
報、を、得、し、り、臨、時、を、後、合、を、つ、ま、き、(正式に
決定すること、す、か、運、び、は、多、く、不、在、中、り、日、刊

稗原製

酒、色、事、一、年、忌、辰、子、出、立、も、も、遣、
墨、を、い、ま、も、つ、ま、り、江、川、の、改、築、二、分、寸、可、所
皇、三、十、日、交、付、雄、弁、飛、石、く、投、石、を、七、と
め、あ、り、梅、澤、慎、六、と、未、可

十日

所、朝、来、梅、澤、慎、六、の、囑、に、依、り、小、切、二、十
数、枚、押、書、を、取、上、り、為、事、来、り、例、の、注、目、を
施、す、る、に、依、り、夫、を、評、論、に、納、意、の、結、果、を、
部、時、分、に、再、り、報、告、し、其、結、果、終、る、而、社、会
併、の、内、議、既、し、秀、英、七、金、保、を、主、要、と、する、の
報、を、得、し、り、臨、時、を、後、合、を、つ、ま、き、(正式に
決定すること、す、か、運、び、は、多、く、不、在、中、り、日、刊

高村克雲の跡に接す、五十帖讀み秋
魚を賜ふ、牧果文行巻を印めて二三の圖書を得
て之の三十日拂

十一日

高村克雲死去三寸圓縁今も未だ極深
懐六寸の抄押巻を交貸、木村昭田村司の
文の寺院の借書口の匙と海濱寺、天尾
寺、接する、六帖龍三法隆寺在、銀鈴
を持来、午後白木舎に物を持入て、島田

標原製

善治も、海に出る、大坂小本儀、
島田も、客の、亦、鐘田、松、
を賜り来

十二日

晴、朝来、松、を、鐘田、
中山、芳男、酒、
を、二時、
を、

十三日

晴、梅澤慎六目より、小柳直亮と依頼さる。反
物と贈る。渡田印刷機製造(今此を去)渡
田初次(今)未書。村山秋浦未読。梅澤の
為替書数書。田舎記者新谷真子(梅澤の
トコイラス、クレシダ三冊大改池尾芳翁と
高利未克司若維新雜史序と寄る。今
午後一時、安田方の者、此より、臨む。同者、術師
と帰瀨(何時)も辞去。今、道中、旅法の降旗

標原製

俊三(今)子孫、投給と約す

十四日

日

晴、朝来、今道中、寄す。今一行を、早中、日大
在り。生江頭正樹、中村若克、古場正利の御みえ
山陽の者、梅澤、彼宅を、早め、来り、則ち、運而、起
り、早し。早大、枝友、今、繼志、今、今、未書。
午後、赤澤、淡社、の、囀、今、一、無、獨、生、流、井、の、一
行、と、草、今、午後、谷、中、一、高、城、の、一、り、高、村、克、重、の
去、お、式、今、臨、む。

十二日

所望の市成文を来り、野村山崎の
小妻市法生留院の民本為訓を信じて
リ其抄書の金沢文庫一冊古文書
三本を親しく、近利尊民の後醍醐帝
関する古文の月形文一冊あり、
市原を以てし、酒飲し、
昂堂、元口、室、
丹兵衛、栗一箱利来、細川書屋、
交付、在、山崎恒四郎、

榎原製

者三と、葡萄、
来書、

十六日

時、細川書屋、
日、由、十日、
交付、
他人、
三、
和、
と、

橋角大印の法語星の遠筒の匣に是
書を七とあり乃ち押書毛囀に應ず、中山房
より来書余の字名を七とあり、江戸川が
改築後接合し、函也利と也来向

十七日

神書集

雨朝又龍吟を兼す、山林望三身動物を
贈る。中浮象一と来書、橋角大ら、身
語、江の飲茶平と筒しと、鮫塩引三本の
油丸と、伝授す、福島の市迄靴三と、梨果

橋角起

を空のこもる、午後あり、野菜の種子を贈
る、又文行巻に志乃軒の自漫書函一紙
と贈りて、又界性来と、余の投符を七と
あり、市迄靴三と来書

十八日

晴、夜相を兼す、市迄靴三、函方を兼す、校反
石橋冠鉅四、中、中、成、おと、伝、伝、伝、伝、
引、早、大、回、考、伝、考、伝、考、伝、考、伝、
こ、端、と、物、を、贈、り、風、月、名、を、伝、授、し、七、傳、く、る、事

望美夫社の日と来歴二十日坊内又あき
社海のと接定す、翌日の地を於て主物と反社
の社員と迎ふ旨告ぐ、亦望とく合す、

十九日

所及町来夫と取立の宛書の振本数紙を贈
る、余の旅行とぬめりる文苑を春秋振刊、早
稲崎才舟秀英の所会併開題とつき、多時
協議の末田中一坂本嘉治馬治のりせんとする、
新居の吉田和男才舟の物と贈る、吉田貞

穂原製

都へと来書、坊内は是迄のりせりと前す、
午後九時に坊内へ、齋下酒者と焼めり
ゆくと、台湾山中推と来簡、田中坂本と送き
予決す、報へ来こ、

二十日

所及町来夫家と取の良寛柱かけと物勒の為め
中坂千塚松平と甲物萬菊と寄りて、
今津八一と来書、伊月義夫と物と寄りて、
又千塚と取れと寄り、キニク海法社と寄りて、
海法と臨み、海法と寄り、美子と寄りて、

今月八日、お礼を賜うす。午後二時東京駅より
熱海行の日に主婦の友社員と迎ふに於て望
望美さんと共に先着、五時頃より熱海着
露木と投宿、此後、今とつてよく奉命と
言われ、余の居る花見地人より借りたる関係上
自今露木に宿することとなり、お茶と飲み
酒を飲す

二十一日 日

熱海、今朝は雨の降る上、あつて不在、十時

種原表

主婦の友社名男女十五人、本社員五名未着
一回合吉とも共々、食後自動車も乗り、未定
とあり、梅園を歩み、白石の釣堀へ遊み、三時
に合食あり、お茶を飲み、六時頃一回合食
とあり、九時頃帰宅

二十二日

熱海、お茶の志向、お茶の投宿、お茶の合食を云う、
中津、お茶の母、お茶の物を贈り、お茶の山陽、
お茶の山陽、お茶の山陽、お茶の山陽、お茶の山陽

とく、是年秋、講也刊四記本、
あり、五十帖、大杉味、
に投前、四時、
田為生、未書

二二三

時、余の應、
二十月、
及上、
克、

標原製

二投、
山、
而、
勤、
四、
上、
の、
畫、
畫、

二十六日

雨、城後、及、於、木、未、枯、く、も、未、出、中、海、邊、一、行
件、三、八、七、五、石、杉、政、之、中、り、し、も、未、有、山、田、法、の、目
功、獲、知、る、人、今、本、配、奉、を、受、く、之、法、の、目、家、取
指、権、亦、統、治、記、し、も、未、書、元、宗、家、の、家
族、と、共、二、泊、の、舟、遠、是、三、行、く、五、十、路、旅、の、目、と
鮭、の、味、増、法、所、未、旋、舟、を、著、下、ま、心、也、也、也
の、降、頭、後、三、中、り、ま、指、金、雪、田、月、未、家、用、由、字
に、交、行、則、係、物、一、毛、と、城、後、未、一、俵、刊、未、

藤原製

二十七日

陰、楠、漱、日、年、と、し、木、を、新、法、を、書、也、目、也、
政、界、往、來、社、の、考、隨、筆、錄、考、起、る、間
塚、楠、漱、日、出、と、考、考、す、午、約、一、時、増、田
義、一、七、字、其、末、之、日、本、記、に、訴、の、文、也、也、也、
身、傳、京、谷、河、巻、を、話、す、今日、喜、氣、也、也、也、
一、天、雪、を、借、し、未、く、村、山、物、の、由、に、高、く、郵、獲、取
今、代、し、し、配、南、金、未、く、先、知、よ、入、り、傳、定

二十八日

日

昨今朝八時田中補後と評乞文の書院
如坐河魁と場儀有海色式流中々大
隈重信関傳文書才五冊と贈り来ふ十月
一日四方祭の招符如列さ石塚三河守千
駄と谷に池田菊江と評乞文三松新三叔
の書書山甲の幅も祝三福の酒飯七物
の石古倉出結守の河津委後も得月橋
の野来の流拍と云しりまの兵庫外西書今
津荒川賀在大中々も松葉と客の七巻
関保物先どり来書

二十九日

昨午四時美大寺より日清香英合衆の
件つきの内儀す政界往来札の送美鐘
巻に一日毎に投す多岐三紙に物を贈
ふ不在巾海色金三才外流文三才り世
家の様子送り替へ

三十日

昨村山油し助を招き池田の方画元後と札来
高島のこと余の字名を贈り美の管内書集
祝加えにつき来書、荒賀在大中々も来色

十一月

一日

雨和田萬生とて其之中央公論の以年節
ニ掲載せしむ大隈侯大名旗本六十頁を
寄附し租税ニ而四十三田内子ニ交付す
後一斗揚和田の境ニ在リ二何故の古高
と筆下十時と午後一時ニ成り直ニ上新
後水島祀の末尾ニ附すべき詩佛堂あり
題頭と宮す、在熱海海田名道ニ一也此
寸田中種後末物このきのり日法印刷會

標原製

社日臨時重役會ニ附さるべき會係のこの
日へき内儀す、通宵豪雨

二日

雨日本石油會此の配高金額致未詳解田
村有海十時日法印刷の臨時重役
會ニ臨み委員會と係合開卷と採議
す、和利利子補助二十田去程ニ交付今
日の日法會經令の誕生席ニ秀英と會
所へ懸るのきし社名を大日本と改稱す

時感冒漸かく快方為甚きを要す。朝来控
録を著す。飯後高橋淳三と福崎河産小海を
と定めてゐる。預金貳百圓引出す。午後春甲
末次信正河内大將の回談論を讀み時を費す
小久江成一上中名亦次を未書。

六日

朝、相田中穂積喜話口話秀英今保問題
へと金役割振員数の件につき幾度も和回
萬丈二一箇と書き、控録を著す。今保二

稗原製

二書もあらず、午後上野黙社来り、自心五五の
詠を移し、田中保を再訪あり、今保問題につき
人事の件を再議す、感冒漸かく快、今夜睦
今、臨み早く物へ臥す、加洋書、後水島記
表壯衣成る、夜未而

七日

朝、小久江成一上中名亦次を未書、件出部
部の他、未を託し、虫の音、漸かく、午時石
塚三、田昌、田艇光の子息を待ひ、未

折帯の山湯の原尻井に湯を覗き、古の
百重に在ると云ふ、此等甲申種類人多し、今所
聞し、又重級の道通、今等、うきき、身取、和
島、夫、子、息、辰、雄、と、乃、父、肥、後、血、此、病、の
子、と、報、し、ま、る、予、の、答、を、得、る、者、簡、日、つ、き、也
うききし、洋、漸、や、く、今、の、山、田、信、也、に、雪、後、を
うき、の、朝、の、日、の、日、と、托、す

八日

山田村社二、今、湯、の、横、後、山、法、海、法、こ、つ、き、と、托、す

穂原製

山田信也、も、孫、和、の、弟、を、兄、と、あ、い、ぬ、ぬ、今、と、托、す、也
や、こ、平、山、望、美、久、と、托、す、ぬ、ぬ、の、信、を、後、人、の
の、打、合、を、さ、る、ぬ、ぬ、中、央、に、徐、早、に、さ、る、家、の、部
書、を、か、か、す、ぬ、ぬ、花、の、と、筆、す、午、後、顔、面、に、且、揮
毫、潤、塚、村、志、に、簡、し、兼、に、押、毫、為、紙、書
送、丹、吳、協、平、と、托、す

九日

晴、先、今、朝、抽、時、之、川、の、休、の、は、え、さ、の、と、託、の、為
家、を、さ、る、十、時、し、ぬ、ぬ、印、刷、今、此、の、重、級、合

此歸古重後全多甲相後後也出席して過般
吾社の決断日と動し其其の決断し件を協
調し、重後の取敢と同等とん心吾社に四人の退
職者を出すこと、さうのむ、此點に異論起り
るも自合の社長も亦今を念係を感して
陰退す、このとき他の三氏に此坊を陰退し七稼
房を示す、と主出、後向年壯者を留め
て久人退印と決す、余りの心退職を決し、
不久江坂本小林の三人也、このとき田満入分派
畢、この間仔細を銀杏と野々来、不中

手原

二三子来、三時、永出、部、又、何
城人の例會といく、帝大教授農の博士
那須皓の農村の更生并、其地視察
法を聴き、此洲會、先夜、今、三、川、
四、十、家、子、列、来

十日

此、高家并、川原物、ま、海、を、も、す、十五、日
石部、全、義、一、進、博、人、今、内、外、利、二、園、丁、三、人
庭、の、午、入、り、ま、り、花、畑、と、兼、す、中、野、原、一、員

傳聞係の不振故に中級木活字の母海か此を
予の(馬島高才の夜夜夜控)本契未天の如
くして其の如く時を休まざるにありて其の
節の起運を治め去る居まよるに世若時
瓜所感と字を平ある、河内全集未十四回紀
本を受く、教養高才高名を、飯七物入
の中央公論記と東の間に市中鉄大のしと淨
念寺計の年方をと字を平ある、久米時子と久
米邦武博士九十年回顧録二巻と名を平ある、
早大出版部と三田打馬の江のり本

藤原朝臣

中津波一と未出久米時子と函書をも平ある、
江のり全集西の年と名を平ある、七時高
田中峰来流五と十時旅望とと平ある、送る
す月、北の高田来流の案件、早大出版部経済
難に陥り大節減を命ずる結果、余等三人は
し月割に支出一つ、ありて、然るに金二年間停止
の事を提示する、ある、此の年等の生活と骨
かす割巻うと三人揃減と命ずる、此の十九の
高田七共、北の、城内を訪問することと約せ
る。

十一日

晴、小矢以第一事務、出設部の取直の申渡合と
関し、寺の旨に譲り、報をとり、且又協議する、未
リ、飯村俊二、三、四男、死云の報を、印刷合
此、從業員、魚津順平、負傷、つぎ、干南、並の
不洗と、委任、代理人、夫、あ、久、た、り、も、こ、ろ、ま、し、未
の、四、職、合、も、こ、ろ、ま、し、未、出、米、田、あ、平、の、外、利、の、付
若、良、中、其、物、園、下、一、人、来、り、庭、掃、の、手、入
さ、ら、う、と、吉、尾、中、手、の、湖、心、飯、お、米、田、の、申、書、を
書、す、午、後、三、四、打、鳥、並、の、追、書、を、讀、み、高

徳源

田中孝一の手書

十二日

晴、園下、二人、来、り、小、池、春、五、の、申、書、を、讀、み、未、意、柄、未、意、を
湖、心、法、心、の、以、散、集、經、管、の、物、を、辨、め、る、場、に、於
て、申、書、し、し、時、を、移、す

十三日

晴、園下、二人、来、り、早、大、書、道、研、究、会、の、報、を、
古、書、時、紀、未、編、時、書、を、論、じ、書、紙、二

板押書、施依「真古」の極題を揮毫出
法化、（？）潤好物と云ふ長竿を字のそ
こま凡社（？）古河三村来り余は偽筆ゆ傳の板好
を施法書（？）法（？）流し（？）還す傾好物と云ふ
新河同考（？）仰出先（？）遠墨辰の目録と云
川美、夜来句

十四

昨平印登美又今池月（？）事以、（？）武田尾書
中印紀（？）坂（？）献文、川瀬一馬、木村一即交々
可也、（？）長教中印（？）近刊祖先の傳中
印神右（？）の（？）取（？）坂（？）山（？）今（？）来（？）関
塚（？）酒本を（？）七（？）押書を（？）来（？）来（？）午後
辰（？）觀（？）の（？）出（？）品（？）の（？）物（？）を（？）校（？）お（？）し（？）時（？）を（？）考（？）す
小池長（？）事（？）の（？）高（？）す。

十五

昨、朝来書（？）の（？）為（？）の（？）偽筆、（？）板押（？）三行未成
す、武田尾書出（？）版部（？）の（？）筆（？）、（？）つき未成、（？）双
雅（？）居（？）の（？）鑄木清方の（？）筆、（？）必川（？）を（？）定（？）る（？）事（？）。

財を乞ふ、金星を、現代随筆全集編輯
不々来信、高田、電法、明報、
七、熱海、訪、約、平、深、金、
生、魁、を、帰、る、細、作、中、浦、村、元、三、
書、散、果、新、者、三、福、と、喃、す、真、中、大、
高、橋、鏡、次、出、京、と、行、物、を、貯、る、来、日、宇、賀、川、為、吉、
研、の、烟、草、と、讀、む、風、岡、一、雄、(北、海、道、
年、聯、會、現、在、)と、月、方、余、の、抄、毫、を、示、
七、

十八日

日

晴九時二十五分、山手線、中央停車場、
日行、熱海、行、の、道、途、を、指、示、途、中、山、手、線、下、
車、一、半、程、為、止、海、車、行、一、時、途、途、部、内、の、行、
を、訪、め、途、途、者、後、初、め、の、今、日、も、出、版、新、
作、の、決、定、を、つ、き、三、人、鼎、足、論、議、予、以、再、激、
要、求、を、呈、出、し、最、果、七、時、湖、三、時、五、十、
の、汽、車、を、切、京、行、の、井、上、中、津、と、
晩、食、を、共、一、と、あ、り、の、師、印、刷、書、法、を、會、
同、者、館、館、會、考、し、未、書、此、日、園、丁、来、り、

廿。

今朝未旋返を著す園下三人来り。亦電燈美
夫未返、白の株主懇話会々つき協成しと云
又社令事書おる社の五十嵐勇外協、今中
八一神郡晩秋とて事者、高回とて白の午後
出の部おる策の協成今とつらと方、電燈来
又午後切人の清とて、おれ紙揮毫、今朝六時
二十分、白菊先吉逝の訃を聴く、山田清心を伴
ふん弔礼と行く、未亡人并親族の清ふと任かせ
法名を心月院文巻、平弔兵士とて定む、事

種原

舟、和の雅都也、忍村千秋とて、舟間花記
心境、魂利とつて、余の投符を返符し来り、花
又入り、和田弄儀、候とて、弄武場、余の演説を
清亦し来り、即ち返す

二十一日

時、園下三人来り、十時とて、印刷会此とる株以上の
株主を會し、早月二日臨時總會を開き、是、吳余
と合併に關し、懇話会をひらき、早弔とて、おれ
り詳細説明、此日株主二十數名、來今、一回、吳

十二時教令、喫飯の後、又入以生じ、其の秀
人と高田を詔せし出版部の問題と概し、大伴
前菜と決す、関係物と云ふし、即ち二巻
送る来り、四時安田邸に梅子種書、白入令
をいらく、内子病む

二十三日

新嘗祭

昨朝来押見、此河田村社、今川瀬一馬、
川瀬の山口書院、今河田の家、梅本、
方印、白倉院尺、美、本、まを貸す、書物、
心

此の随筆、そのおもむき、概して
外二三、よき来書、中津家、一斗、梅、園、
引つて来り、書物、今河田、和、田、城、士、の
進、修、記、の、書、物、と、な、り、ま、す、河、田、邸、物、
前、日、且、つ、押、見、を、郵、送、す、河、内、邸、
前、出、版、部、の、事、を、報、す、村、山、邸、
り、来、河、内、邸、山、書、院、の、運、命、と、い、ふ、ま、る、
河、内、邸、の、書、物、と、い、ふ、ま、る、日、本、
系、河、内、邸、の、書、物、と、い、ふ、ま、る、
著、稿、

二十四日

晴、日本仍古一班と校し七林並三に交付十時
一、抄本古今録に書法古今の書法を第一に
二、時代の目録本展覧会と開く、以て此
一、院後、和の書名先の書式、此に送呈
所、葉光寺に到り、式坊亭友人徳代と
一、院の書法をとり、衣はる書色、今、并者
を一時門停之、とて、四時物書、全、山考典
和の家、送、ふ、庭坊、入、海、書、物、念、此、此、
洞、す、た、入、り、石、塚、三、ら、す、り、内、子、の、歯、根、の

病と瘡す、三浦作、四廿、名、の、孫、好、記、の、

二十五日

雨、晴、庭の手入終、及、く、す、と、小、西、園、丁、二、人
来、入、田、昌、こ、し、来、向、朝、来、施、給、と、兼、書、
田、村、社、二、り、廿、五、積、浪、海、浪、今、よ、つ、き、
法、電、山、車、三、山、院、の、遺、墨、の、題、連、を、
女、熱、海、の、極、に、好、記、聚、楽、と、改、称、の、旨、
持、主、と、し、新、に、来、り、坂、に、献、を、
八、日、九、日、春、城、の、来、り、つ、き、云、と、す、丹、那

の事ト云ふに在、抄海の三津の爪元七歌等、先
との計畫也十一時竟、同付文の事と云ふに、此
の内、四内、押入、爪月中、候し、物々、書物、是
筆と云ふ、し、書物、辰望、此に、投、其、方、橋
鏡次山中、植、ま、し、未、尚、

二十七日

雨、朝、来、和、田、崎、士、と、傳、ふ、之、も、立、稻、川、瀬、一、馬
陣、川、品、と、云、即、し、未、久、村、山、秋、浦、の、所、に、居、り、依
象、山、の、書、商、の、道、面、に、置、る、も、設、書、山、の、地

神河

ら、長、力、并、に、記、事、固、中、務、一、身、も、余、の、雨、願
を、言、さ、ん、こ、も、清、み、候、し、と、言、さ、し、ま、あ、代
の人、五、百、名、目、の、而、願、を、言、し、唐、法、院、を、と、傳
き、ん、と、才、と、云、ふ。未、十二、月、八、日、帝、國、未、元、に、於
て、佛、誕、二、千、五、百、年、紀、念、祝、典、と、名、け、ん、し、
今、も、井、上、池、次、り、し、も、あ、ま、の、狀、列、し、ま、あ、臨、時
帝、國、御、令、見、集、午、傳、井、口、基、成、身、法、石、塚
三、印、の、子、造、り、況、辱、ま、未、也、

二十七日

而和四侍士と博ふ文籍と考証多分と寄す。
及所采支寸其後良寛并空海書拓本四枚
抄事り得る事下亦亦来り轉居と報す數
米丸美玉唐の圖書と辨め、高野庵今を酒飲
し由也後飯糰採録趣きと御書到る大
花大目兩人と評務有橋造治代り花ねに位
か、生花橋造と文の協合の出家誦讀今も
聞く差河ありと序

二十八日

昨風、吹起来ぬり地雨あり、相来致務を
華す、本橋陽美州町長橋造の今分の状況と
報す、并後士山口勝次身為、高田完二、久
江支回と合し、出取部一件の事支回が為ら
田中早大徳者と文海の仕末を聴く、後鳥
石潤、山陽の書十二媛侍麻瓜の後孫を此の
四時廿二橋造と云々今報し、利り圖書飯糰の記
る事、此の席上大橋誠一并後士の徳川の家
の上生從由書の後あり、婦崎正流と此の
此の事、此の事、「歌集」を贈る、此の事、人分

牛込支那を以て紙張之友と創刊余の師出三喜の
寄附を収む

二十九日

明、朝来旅館を著し、故にあり注射を施
す、雄弁に編輯川島海軍博物館の
出席を求む断らる、預金も書同出、家用
三元つ、高田家前も来也、妙法朝風のねいまく
らと越後、出版部の件、このとき、何と前す、三
軒外、清くも来書、人志日、このとき、元暮春、行く

文三、身の家跡を志し、志す、二十日、文三

三十日

明、早大の言道、今委り、事、深時、確、来る
押、毫を交付、且つ、身、日、の、若、若、人、る、に、冬、も、
品、し、と、出、陳、す、べき、二、三、點、の、お、書、を、来、り、
小、沈、と、書、き、り、
取、込、
龜、山、素、三、に、押、毫
を、交、付、谷、口、織、下、ら、く、と、藍、田、の、お、日、信
并、遠、東、の、お、日、と、寄、り、と、寄、り、と、寄、り、と、寄、り、
和、田、辰、雄、
り、来、書、の、

夫の事件を協定し、よる後去の六人といはれ、
出陣部の問題をいつきまぬが甲中総長と交渉の
結果をやく結ぶと、後方の部、キキの協
定出来に同意を述べ、いふやうと報じ、
日のご様子協定する不あつ三時頃も不在中
病中の大石理の母は、

三日

町、武田豊四郎といふ未書開塚村に去り、
とせらる、朝未能候と兼す、大石理の娘

手振入洋連末丸の伝介状と並ぶ、幕府
條約廣葉道先けふの臨時閣議で決定
の由は、又部に出づ、結果白木念に、即
川二重一匹の漆を托す、出陣部といふ印
税二回、丑十九日利未、補綴日、まを未出

四日

町、田村壯二に、銀の利子箱印先月分
二十日交付、東京日記者菊池三男、
初婚の妻、喜喜といふ、まを未出、出陣

展覧会に巻々書物九點並列の爲高し
二文其真以桂次中しと楳引日中太
野某味^{野某味}特別未海也そりさ
新五部に神毫を需りある出版部
圖十中の書名(伊原忠)五年西史物
江戸時代二冊配本五時紅系
臨也高田桂子井上木林望月
垣原西直危馬の報とやく市
多林橋二若利来

七日

時朝来遊覧ともあり
川も桂橋河島魚とまくの物も
ソ寄す先もはあて高崎屋と
酒飲も四のち高崎屋ハ
工藝品並列あり一覽す
伊原忠二圖の圖十
部の芝居しと讀し和蘭書
其の夜に介り古四秀人
政華お福に本泊長時
の寄物も取り高崎屋

八日

十時の印刷の準備令に臨む日本印刷会
し、八分の配中を決す、午後早大書道会との別品
を兄の郵券回信より新年飾りの為押真光年
後とて裏紙の邊にをそよ、爪宮一雄と来
尚早の押真光を求め来る、中、信若男の

九日

西、中島芳男の水仙、品田隆平とて物を
贈り来り、父所采支とて自ら寛く振本二

枚勝る、故物の号生ある書字とて心
を起す、詞を述べ、揮毫散紙人の書に
尚存者、とて、物を贈り来り、旋紙を革し
時を移す、

十日

清、楠瀬何氏の徳古印、正と木巻の復活ある
想練の色を皆付、不久江成、出陣部、改革
のつき、来、武田に宅を遷居する、つき、挨拶に来
り、東、山田も人本、江成、向、向とて、つ、為、の、来

功換抄を為す、と、元の改革より四種のなるもの
武田、日本古物、行打、保紙、二書、山口、お物
服部、十人、及び、余の考、孤獨、并し、と、ぬめ
る、雑詠、雅集、孫利、城後、侍、長、之、三、噴、風
今、午、ま、八、枝、と、未、書、午、後、先、を、付、之、事
劇、の、映、畫、を、観、今、付、八、と、白、鷹、二
疑、を、贈、り、來、る、に、沈、春、中、の、り、と、茶、山、手、間、を
二、冊、戻、し、ま、る、物、を、行、と、

十一日

時、新、居、の、館、が、男、の、名、を、あ、り、向、す、お、次
と、あ、り、り、お、ま、八、枝、と、向、す、出、政、部、の、お、付、の
つ、ま、い、は、由、り、向、す、廿、三、日、名、原、利、長、大、中、の、日
祭、り、つ、ま、い、遺、詠、と、口、口、正、午、と、合、時、と、七、年、お、ま
と、供、さ、る、案、内、列、の、出、政、部、と、廿、五、日、株、主、結、合
の、通、際、列、の、物、上、お、ま、あ、り、向、す、例、の、注、射、と、池
と、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま
采、木、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま
成、女、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま、あ、り、向、す、お、ま

發送、文の協今と出版するべき英文大日本の以て
叶一の編と筆下し完かくる

十四日

明朝来叶の書きあけの叶一の編筆心
る今叶ハ一と来者、余の酒と勤王の漫
筆をおめらるる今道二は飛込、振利、今叶
二後方、和田萬吉来と二人来在、竹内喜太郎、
福井の蟹を送り来、午後に出、早急用の靴
海苔敷箱を贈り、今叶ハ一と来書、錦茶

葉と投筒、粟米、羊一、巾着を贈り、竹内、
を寄す、大谷、向、佛、向、入、畫、幅、を、贈、り、よ、あ、の、
方、に、書、紙、を、今、の、の、人、今、ま、の、と、久、席、

十五日

明、朝、来、葉、紙、を、寄、す、菟、山、車、三、十、五、山、陽、子
稻の形者と結ぶ乃る書一と書、奥の回、守、符
ら、物、を、贈、り、あ、の、傍、川、二、尾、大、浪、家、の、
葉の礼、乃持、を、寄、和、田、来、亡、人、并、十、次、
象一と来書、深、夜、而、一、過、

後水とて新市史(下巻)と云ふを母の千
後閑に乘して龍徳院後出の花月と誌志
今の忘年會と聞くと、未分八人、今津ハ一とて金石
は價このとき細書刊の粟木多法安の葉ふ利未

十九日

晴村山秋海寺法丹集とて後引をえり
来る園下松の宿雪すある来る平後秋浦
の囀こをり名家手間り花河野とて
内島又定之孫め秋木在六大将の息嫁

まゝに(金)秋海寺法丹集のゆゑに松こゝ今
甲入今秋、動きの、ちり以上類の前止遠一枚
つ、こんりと前止遠一空

二十日

雨、秋海を筆し時を移す、うしはは城原山
の跡を傳ふ、左朝鮮がら右法とて林橋一
函とて空をり、中島芳日とて、外方、宗
家并立のて、天、世帯と賜りある。

廿一日

明坂上弘純翁の例の注射を施す山田正平
唐漱内吹、真珠柱の中にも未問、新市市
役不々、寄贈の新市市史(下巻)新刊
下坂家一巻命を以て物を知り、丸山喜雄に
リ物を贈り来た、午後旋風を蒙り時と移る
村崎詩雄二書とある、台湾の雑誌「愛者」
寄せたり日本仿者大概の抜り二通、利来、山
中雄と未書

二十二日

明龍吟社の井上村二馬込、近刊の流編
年史一冊を贈り、早打村雄と西澤
桐生と寄り来た、夜、献書書向より坂本素次
馬房と首書名利来、要無事と名付酒を飲
段をたし、ゆるゆる成り流年史を後、矢吹美
物と贈り来た、富原流と物と贈り来た、
日本放送協会と森本勉、一月三日余
の放送を初め未流、早打村雄と西澤桐生

先と併せて丸じんに托を贈り、五時とて茶會の
伊香保の印刷會役員と懇親會を催
す、市席上一場の演説と為す、予社長を
辭し他の重役と令するハ、とて以つて天後と
あり。今は此一も考古年表の終り也
別來、紙作合々も過般日名の字と未だ、

二十五日

雨、大正天皇祭、森脇イ子流、土田秀大、
リハル米、つき未書、大隈家、瑞物等名

穂原製

別來、高橋治吉、投前、土田、茶也を為す、大
隈、海山と為す、瓜哇の横野武とてハイ
ンアツプ、六罐、貯り未だ、正午一杯と似、
後十数幅、揮毫、後者、在友町助次、
焼魚一皿、を、安、早、の、
五、十、日、) 為、博、考、二、時、已、散、果、給、生、
め、七、物、(、日、市、の、整、と、未、出、

二十五日

晴、中、原、象、一、身、流、及、町、助、次、
謝、意、を

又、市山範三に押書と交付、大正年間、押十七
田井、龜山に懐代十三田、押六、六、十六田、給ひ
、秋、十八、、樂、便、田、美、岐、代、三、田、内、子
、河、東、早、一、時、點、過、の、五、田、度、す、外、出
、給、ひ、の、用、を、兼、し、實、收、以、淺、者、親、音、に
、實、一、と、給、ひ、の、取、に、就、た、書、押、を、給、ひ、年、の、末、家
、用、の、田、三、田、内、の、交、付、

二十七

河井、安、後、廿、四、日、子、前、主、河、井、

種原製

河井、安、後、廿、四、日、子、前、主、河、井、
、士、子、息、和、田、恒、作、子、流、早、大、号、を、抄、原
、花、井、の、三、の、也、以、故、河、井、を、給、ひ、の、取
、年、放、送、の、冬、の、旬、也、去、方、の、由、の、に、交、付、
、先、と、は、の、行、名、に、拍、と、給、ひ、三、幅、に、取、り、
、抄、り、中、の、武、を、保、出、来、り、り、と、抄、下、取、書、伯
、と、河、井、井、に、傳、記、川、東、内、宿、久、の、也、田、日、昌、木、林
、田、邊、の、押、書、と、拍、と、定、り、の、年、の、末、の、投、付、を
、お、り、り、書、拍、伝、記、は、自、都、に、傳、記、

二十八日

頃四五雜信を賜ふ。田村在二印に給の利子
二十日交付、坂上献吉、村山真作より
自著五万石の款一冊贈ふ。和四萬石法名
の四字を書し遺族に郵送、高橋次を併
代并、龍吉を贈る。序の寄附をぬめり
回者留施、法名を鄂利達、十一時迄
文行巻を納む。風月巻に飯七、地三、文行巻に
三十日押入、高久、丹古、瓦、漢、三、振、手、序、二冊
六十日、任、吉、如、美、不、職、人、在、務、本、踏、入

昭和九年起居稿要

- 一 一七五買取と返す
- 一 二月六日例年の如く熱海へ赴き都白湯へ
- 一 友人高田四郎死去の訃文七段、寸昆の
の葬式に一旦出席あり、并給
- 一 熱海滞在中、生田七郎と伴を下の湯を
訪ふ。開園當時の遺蹟を記し、蓮臺寺
へ行き、印の取返し、往後自動
車三十二里

一 十方物書後、廣井一、目下部赤次、中
塩淳昌ら、妻の刊刊。

一 廣井の進、悼文を北條抄に、寄す。

一 和田垣福三、論を吐雲殿に、投す。

一 隨筆、旋心、境、二通、入、固馬十連、一
ツ属を寄す。

一 名家の自筆、及、故とある、め、一冊、に、紙

り、こ、み、回、者、一、七、名、家、手、書、旋、心、と、い、ふ

一 大改、毎、日、の、境、を、下、隨、筆、愛、樹、成

一 二篇を寄す。

建永四年

一 我々の漢仙語、小冊四巻を、筆、し、佳

園、禁、秘、抄、の、附、録、と、す

一 中央公論社、と、い、ふ、余、の、隨、筆、代、解、録、五

十、部、印、税、四、百、五、十、圓、領、ぬ、(前、所、在、の、

寺、多、同、外、に、五、十、五、部、買、入、代、差、引、残

金也) 二月十日

一 二月十七日、余の七十五回、誕辰、に、下、り、春、藝、

を、藝、所、の、志、目、録、と、い、く、く、福、外、料

を、用、を、寄、附、并、に、代、解、録、を、領、す、也

合十九名

一二月廿七日終日郷人の為め終日押書
二十数紙成る

一世界公論に雜感を寄す

一余の思慕す小幡庵雜筆の相馬

一海風祥東東朝の三月十九日紙上

ニ登載

一萬田良平敬執筆の中華武官傳

一其の原稿を讀み且つ校す

一言田良平中務徳五郎の死

一早大退職の際會計部に千五万円行

種彦

の借財全あり退職手取り金より毎月
十四の五割し本年二月清還

一日本女性と題する予の文とぬめり改

一文藝誌「大日本」文の協会に於て出版さ

る

一旅法會道樂の座談會に招かん臨席

四月二日

一傳し木俣経清墓の墓前四文後奉ん

余の雜文塔の一篇を収む

一平凡社の雑誌「書と藝」に書評一篇を

投す。

一友人宇都宮若島直彦死云四月九日
一雜誌政界往來に「他筆眼」の一巻を
送る

一四月廿一日朝内子軒君の脳溢血に罹り
送る迎へて「津野お静」に臥せしむ
数月を待て回復す

一東京朝日の「虎」を看し内田魯庵の續紙
「近世の日記」の批評を空の如す

一雜誌心境に「隨筆」不忍池畔の伴

の二稿を投す

一雜誌書藝の為の雑誌「元勳」の筆談
二稿を投す

一雑誌社主催の「四書」長談今を觀る

一六月二日對徳川頼元日本圖書院協会
控訴書件につき「心人」として控訴院の
喚と受く

一國民新聞の「虎」を看し「隨筆」「朝野の
二稿を投す

一東京朝日の「虎」を看し「俗手紙」と題す

る隨筆をも寄附す

五月九日同方館協合評議員と雅叙園

会より同方館新刊「大令^{年表}」の

分賣と並べ、宛先をひとごとく一坊の諸侯と

あり

一 雅述「文休」に隨筆、狩谷樵翁と寄附す

一 早稲田の「報」に「この國邊」を題する

進境法と海一丸の四回うて、筆を収む

五月十九日八月に及ぶ

一 南義二印の刊行の故に五ヶ年のもち

五月廿五日

一 書法者の合衆に余の漫筆を収む

田に送る止む

一 出願部より印税五十二圓四十一圓の

(五月廿九日)に左よ朝日と凡社國民の

社より「西金創刊」を収む

一 六月二日前掲松浜事件に犯人として

不喚をさすけ出庭の日しつべきものあり

五月末の筆度士大橋誠之を収めて

赤々とす

一 第四生命と契約金と對する利益分配
額は二十四の千文である

一 六月八日九日ありに渡り、知人の二處に
い三十枚枚揮下す

一 六月九日早大の新建築案を相談す

一 日清印刷会社本期六分の配由を考
す

一 余の昨年未だ口清の社長と辭せんと
して出たが他の重役の阻止する所と
なりしを得ず其の留任しける事

一 夏清より十二月迄の存在を確す

一 何時の田園生活一着を考へ旅徳心統
に寄す

一 剛に乗込ぬの大隈房の大名扱ひと
是より六十枚枚とせざる長着を考
へす

一 柳土屋の二着命を故人会に託し授
す

一 京都の友人内田市次郎(湖南場士)に
去六月廿二日

一 七月より夜行新橋校有るを、臨去高田
 多子ニ協士日行、此行先を付お
 七日校有大会兼、迎、友人等、臨去出都
 万名に及ぶ、八日夜校友有志のいあ合、
 招き、九日終、校友のいえ押、是、此行
 新橋市片小柳牧術、(馬王梁)高、お各、校
 友と合す、赤白熱、是、招、え、銘、茶
 局、飲、玉
 一 由、素、後、旅、徳、藝、術、局、に、投、す、く、き、以、家
 山人の思出四十頁、巻二〇と書す

建永四年

一 新橋校友の席と、下押、是、二十枚、新
 橋、郵、送
 一 堀内吉と、(熱海)に、肺、炎、に、罹、り
 一 水害の追懐を、編、し、旅、徳、心、境、に、寄、り、す
 一 赤良記の、稿、に、及、び、書、巻、に、書、と、手、紙、の
 一 稿、を、投、す、廿、日
 一 北、嶺、の、稿、一、葉、八、十、部、に、旅、感、一、篇、を、寄
 了
 一 旅、徳、心、境、の、創、刊、部、に、日、本、山、の、形、を、記、述
 一 一、冊、を、寄、り、す

一 七月廿六日安田方書徳学舎府後令年々
臨又諸題の偽書を讀す

一 伊賀山久瀧記を著し龍伝本草に
寄す

一 大坂毎日内報の嘘を著し龍伝本草に
一稿を寄す

一 於徳心境と塩礼後記の偽め初の二巻を
寄す

一 八月廿三日と初日日本偽書業の腰書を
著し候す

徳原製

一 二編易林廿五回忌の偽め山清淨心院
の帝施と迷う回向を撰す

一 御人中島芳男部下の酒舖開店の二巻を推奨
文を著し候す

一 日本偽書考の偽説を著し
一 東京日々の嘘を著し余の回を叙味の

任歴を著し世の起文め、讀者の表
か所と著し横説と寄すあるもの多し
九月十二日

一 徳川家、御下り回考終場令の控所

件協会の勝訴を悔す

一 重松静太郎が東京で電撃をうけて出京母の刃
傷と来りぬる浮花の後悔

一 九月十七日先考の三十三回忌法要を
芝居の浄会寺で日清浄心院より布施
をめぐり、祝賀するちりめんの風を
さびる。

一 雑誌本陣に「森村の心境」の
乞兒の心境を定めます

一 茶人の心境一冊美術倶楽部創

穂原製

刊物定めます

一 東政井閣不地方式未嘗有の大風を起
り酸鼻と担い

一 文苑春秋の囀るを「楓書漫筆」一冊
を定めます

一 十月一日書法各令主催の講習会に臨
み外回に出張する日本関係の方を就
こ一場の講演を為す

一 十月三日書法キング主催の江戸時代の
書法会に臨む出席者志の余りの快遊

軒田正三井家小膳(後作家)と降龍
とんぼのま婦

一 甚清に別行する日ぬ獲紙言書に日本偽者
大概を寄す

一 吉田半峰の女婿早大教授ニ木保保氏
死去 九月五日

一 秋案教日ついき一年毎湯みの余の
池ぬりも水漲る十月

一 勤王と酒の一箱を旋法会道楽に
空りす

一 有利定平死去お式と踏

一 十月廿一日主婦と友記者十五名を執海
と招き親交且つ学術を聞き、余り海印
副社長として出張招待す

一 十月廿三日菅野氏の志願を以て海印
を招き酒次後水鳥泥の画を公とし
めを成す

一 本年得る所の書畫並左の如し

管内遊記三帖

柳里恭介公状

越中為執務

句傳書後

紙僧少林小畫卷

小曾根乾也州石

道高揮画書簡

野澤如洋海遊圖卷

莫太墨堤伏書

田山古墨後名文

鴨居方簡

野澤如洋後水鳥記

少岳芳村星也松平太公簡

絳高款畫大津繪一帖

小原故心詩帖

住吉如慶職人

亦多其閑安未山子詩帖

北方大畫記橫卷

藤原教

馬山文一書畫後為鳥記橫卷

猪飼部不日傳

藏家士山入畫冊

石川侃高本河野年峰小點

和田是又子柱才爪澄人

良寛寫藤河振本十數紙

志道軒自筆後圓像

一 余のありあらずに於て甲戌換録一冊

成り

一 同書後於後の頃、應し日本偽者一冊の

稿と定むる、

一 余の校閲を任ぜし中野武智の傳去版成
る、

一 御人及町衆共良寛禱所の遺蹟を刻し
其振本を世に頒びんとす、そのとき其推奨文
を必り其ふ、

一 十一月初旬又方振る感冒、罹り臥
す、四五日を經て愈す

一 日清印刷と名ある英會の合併氣運漸々
進み、十一月下旬双方役員會をつゞき、

の條項を議決し、十二月二日の夜、復た
於て兩社共會條を可決する、又、新會
社を大日本印刷會社と改稱す、臨時條
令に先ち、あはれせし重なる株主を令して其
諒解を得たり、余、此の條令を校し、其
七月廿日通り本期刊り社告を發す
ること、いささか

一 日清の本期刊下本の成敗殊々、八分
の配向をとす、こころ決し、
一 本凡社の書藝に偽筆相傳と定む

一 早大出版部余等辞任後田中早大法大五輪
の下るあまも事業を展たす汪海金々行
詰り入す其其他大節約を行ふ結果は
早大の既定越各金月割分給とも二
年中止せんとする窮境に陥り、我等七
生計上困難と感ずるにつき直に議
する結ぶが方由と共に理由を熟考し
防めば協議の末再議を求むること
あり、吉田秀人として向ふと申すこと
あり、このころ武田尾吉の約十名の

種原

退任とあり、そのころ西のやんご未以前
金と善字、そのの對策を得たるは
態にあり

一 十一月廿一日和田萬吉死む廿四日葬儀
に臨み予友人信代も追悼法を
とす、葬に其法名を撰み、且つ追悼
文を著し、其書法名合誌法と掲載
す

一 十一月廿一日書法名合誌法を江戸時代
書法名合誌の廿五家の自筆本展覧会

と故有令致し開き余も数點出陳す
一書物展覧社の嘱と應じ外回に出張せん
此日本の例古しの稿と定むる

一此年例のことごとく毎月文の協会の例令を
いふき、外回の手帳に通すも必程の人を聘
して講演令をいふき、令員と登すること
少くもか

一辞書復覧の令七九期十八年を定むる
と別り、益々良書を復刊せしめても入
一雜誌「雄弁」に隨考を編輯の弁を令する

榎原製

一十年才海内一回以上は是れ注射を交
く今年一七又一回はかゝりれことあり、予のいふ
致あり吾人の健康を保つ所以とんと在り
一頼山陽詩書撰を家の名を掲し題を
を授ふもの今年、亦も多くをん其類と成
ふ

一文の協会に書物の政文「大日本」を外人に
向つて請ふ所の一命令を著せし
一年末早稲田の報しと五十圓の謝金と
さる

支店にあり、貯蓄金貳萬五千圓のり、
 同定額預金（一十年自給金）五千圓の上、
 十年期貯蓄金（九十年中生活預金）七千圓
 現金七千圓、黒田町支行に同方代
 五十圓支拂、凡月巻に飯七物、金庫の
 一とと来間、至三十圓内子に交付、草木正
 年の外利は概増、等と護し七千圓の増、
 と後、通霄降雨、

筆

